

第五章 復興の二十年

学徒出陣で兵役に服していた学生達も終戦を迎えて逐次復員しはじめた。

青山常磐松で戦災により校舎を失った農大は世田谷の陸軍機甲整備学校跡の建物に移転していたが、復員した学生達は続々と復学してきて次第に学内も活気をとりにどし生きて再会をよろこびあった。

大学の再建と運動部の復活にそれぞれの立場で努力が積み重ねられたが、インフレによる経済変動のすさまじさには、抗しかねて、なかなかはかばかしく進まぬ時代であった。

衣・食・住に極めて不自由な時代であって、特に食糧は乏しく、米飯のたべられる者は少なく、配給になる小麦粉やとうもろこし粉などを焼いて弁当に持参するようになった。「代用食」の多い生活を余儀なくされていた。

空き地があれば、少しでも食糧増産に工夫し活用したときであり、従って農大構内も野菜畑や芋畑が多くの場所をしめていたが、その一角に眼をつけた庭球部員は、自分達の手によってコートづくりからとりかゝった。

昭和二十年秋のことである。
現在、各研究室のフレイム群が建ち並んでいるグラウンド北側の一帯であり、一段低くなっていた黒土の畑であった。

そこをクワとスコップだけをたよりに整地にとりかゝり、ローラーは農場実習用のものを活用して転圧整正をくりかえした。

とにかく平らな場所が欲しいという熱意と若さの集積によってコート造りから部の活動が再開された。主将杉山一雄はやつと整正されたコートに和光学園から借りた

ネットをはり、道具をあつめて部員を募集し、練習を開始した。

野球部はすでに活動を始めていたが、わが部はコート造りから道具の調達に手間どり、翌年春からやっと練習の出来る状態にこぎつけた。このあたりの詳細は随想中の杉山一雄「終戦と庭球部」によりうかがい知ることが出来る。

復活して対外試合の第一戦はこの年の秋に横浜迄遠征して行った対横浜工大戦のようである。

二十二年には関東学生庭球連盟に加盟もし、更に青山学院に招かれて春から定期戦が再開された。

十一月十五日から行なわれた関東学生新進トーナメント大会に出場した記録を十二月十一日付の農大新聞が記事にしている。

「ダブルス二回戦に残った坂下・斉藤組は立教の松本・清組に六―四・二―六・五―七で敗れ、シングルスに四回戦迄進んだ坂下は惜しくも東医大の河本に二―六・二―六で敗れた」と報じている。そして「その他の出場選手は志津、館林、荒谷、小野、上田、中村、小林、今

井であった。」と。

翌二十三年には苦心して造成したコートを土質と地形の点から現在の場所であるグラウンド西側に移転して二面のコートをもつに至った。

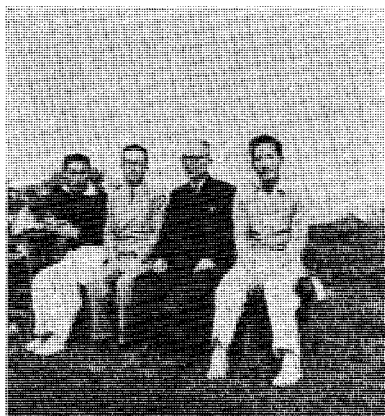
農友会からの資金援助もあって現在の二番コートを先ず対抗試合ができる様に整備をし、土手に近い一番コートは練習用のコートとして部員たちの手によって整備が続けられた。この年の戦績は二部最下位で三部一位の文理大を5対1で退けて二部に留まることができた。二十四年になると、多くの大学が加盟してきて我が校も次第にその地位を保つことが困難となり三部に移行せざるを得なかった。

同年六月二十日の農大新聞には次の記事がある。「廿四年度関東学生庭球リーグ戦第三部はボールの都合上予定より遅れ、六月中旬より各コートにおいて開始された。庭球部は五月上旬より高田馬場の運輸省コートにおいて練習を行いシーズンに備えて来た。

現在迄に行った試合成績は対千葉医大戦(千葉医大コート)ダブルス二対一・シングルス五対一計七対二で大

勝す。なお六月十六日対中大戦・六月十八日対慈恵医大戦を東伏見コートにおいて行う予定」

同年十一月二十日の新聞には「夏期休暇を利用して八月廿日より一週間、岩手県花巻温泉で合宿、秋のシーズンをめざして練習、久我山大学と練習試合、青山学院大学と定期戦を夫々行ない、左記の結果を得た。農大五対一久我山大学・農大四対五青山学院大学。十一月下旬に



世田谷に移ってまもない頃
左から大竹、青木会長、
三浦部長、黒田の諸氏

行われる関東学生新進トーナメントには多数選手が出場の予定」と記載されている。

徐々に落着きをみせてきた社会も依然として食糧難の時代は続いており、練習の帰途には声も出ない程の空腹状態となり、僅かに焼芋屋などでうえをまぎらせたものであるが、若さの故によく頑張り二十五年五月十七・十八の両日行われた対青山学院戦には二対七で負けはしたもののリーグ戦では三部を維持した。そして世情はさらにきびしく翌年には残念乍ら四部に移行を余儀なくされた。

三浦庭球部長が骨董品のなラケットで学生達を指導されたのもこの時代である。

リーグ戦の相手は中大、日大、東工大、学習院、成蹊等があり、日大は軟式で全国優勝して硬式に入り、どんどん昇部する勢であった。

二十七年年度の役員は次のとおりであった。

- 主将 藤本 幸夫（農4） 主務 青木 俊雄（農4）
幹事 柴野利七郎（学農3） 会計 村上 侑（工2）

学連担当 柴野利七郎（学農3）

また、この年はO・B会にとって記念すべき年である。

七月十日付の新聞によれば、見出しに「O・Bで常盤松庭球クラブ結成」とし、「六月十四日午後五時より農大食堂で大野・泉山両先生を初め庭球部諸先輩多数出席のもとに常盤松庭球クラブ臨時総会を開催し、会則及び本年度会長青木定雄、顧問三浦肆玖樓、大野史朗、山口玄洞、井上静蔵、泉山敏雄、常任幹事福田紀重、大竹一男、千代英夫諸氏が就任した。なお、当クラブは本学庭球部の今後の発展に寄与することになった。」と報じている。

合宿は前述のように二十四年夏には花巻で行われ、高知に、そして会津若松にと年々各地へ交通事情も思はしくなく不便乍ら遠征して実施された。

引続いて二十七年主将、藤本幸夫以下八名は八月十七日から二十五日迄会津鶴ヶ城脇の西沢別館を宿舍に会津若松市営コートで合宿練習を行った。

日大庭球部主将の牧野進氏もたまたま若松に滞在中で練習に参加され指導をうけた。

当時の記録では藤本、青木、柴野、坂内、小泉、土屋、

那須、大橋、谷が参加し、O・Bの小野、佐藤忍も指導にあたった。

十一月十五日から関東学生新進トーナメントが行われたが記録はない。

秋の対青学秋季定期戦は次のとおりであった。

十一月三十日（日）晴 対（於）青山学院

農大3―6 青山学院

ダブルス 2―1

No. 1 岩野（3―6） 6―4 2―6）猿渡
新美

No. 2 ○藤本・青木（7―5） 7―5）大角・堀川

No. 3 ○坂内・土屋（6―4） 6―1）堀内・津谷

シングルス 1―5

No. 1 藤本（9―11）松本○

No. 2 岩野（4―6） 6―8）川瀬○

No. 3 青木（6―4） 4―6）2―6）篠沢○

No. 4 土屋（0―6） 4―6）大角○

No. 5 ○新美（6―0） 6―2）里見

No. 6 坂内（4―6） 2―6）平野○

続いて十二月三日(水)曇 対(於)東工大

農大6—3東工大

ダブルス 2—1

No.1 土屋・那須(3—6) 平井・大野○

No.2 新美・小原(6—2) 仲野・藤田

No.3 大橋(7—5) 4—6 6—2) 河原
谷 園山

シングルス 4—2

No.1 土屋(3—6) 平井○(2)

No.2 柴野(4—6) 仲野○(3)

No.3 那須(6—3) 6—1) 藤田(3)

No.4 新美(6—1) 6—1) 大野(1)

No.5 小原(10—8) 6—2) 河原(1)

No.6 大橋(7—5) 6—2) 園山(1)

この日は北西風が強く、極寒の中で行われた。

対外試合のスケジュールを全部終了し納会を行った。

十二月七日(日)晴 納会

大竹・鈴木(6—4) 3—6) 藤本・青木

黒田・原田(6—3) 9—9) 坂内・岩野

田中・小林 7—5 大橋・谷

大竹・鈴木 6—3 那須・土屋

田中・小林 6—2 青木・深代

柴野・小原 10—8 大橋・谷

大竹・原田 6—1 藤本・青木

黒田・鈴木 3—6 坂内・岩野

この日の参加者は大竹、鈴木、黒田、原田、田中、小林の六〇・Bと藤本、青木、柴野、坂内、岩野、深代、土屋、那須、大橋、谷の十現役の計十六名であった。

尚、青木はこの年関東学生庭球選手権大会に出場、四回戦迄進み、慶応の大鐘選手に二—六・二—六で敗退した。

因みにこの頃の全学の学生数は二千人足らずであり、この年の新入生の納める学費は全期で二一、七〇〇円であった。

明けて二十八年二月八日に経堂「君ヶ代」で卒業生送別会が催され、三浦部長、原田太郎、黒田、森下各〇・B列席のもと、藤本、青木、坂内、深代、加藤、木村、

高橋、(欠席柴野、岩野)計九名の当時としては大部隊を世に送り、現役は十二名の参加であった。

納会後は霜柱の影響でコート器具がよくないため高田馬場の国鉄コートを借用して練習を行った。

二十七年十二月十九日、二十八年一月十四日、十九日、二月十二日、十六日、十九日の計六回であり各回八名から十名の参加があり、又三月三十一日には新宿朝日生命コートで日中に練習を行い、夜八時四十五分東京発大阪行の列車で和歌山合宿に出発した。

和歌山県教育会館を宿舎に、土屋、那須、村上、大橋、野北、谷の計六名のささやかな合宿が開始された。市営のコート二面をかりたが、小人数のためであまし気味で、四月二日から七日迄の六日間をみっちり練習した。

予定終了後、和歌山在住の卒業生八名による歓迎会が開催され、部員一同元氣回復し、翌八日には更に米井先輩が全員を紀三井寺から高野山を、そして九日には姫路城を部O・Bの藤本先輩が案内し、英気を養って帰京した。

昭和二十八年度は次の役員に引継がれた。

主将 土屋 秀貢(農3) 主務 村上 侑(工3)

幹事 那須 英(農3) 会計 大橋 晁(農3)
学連担当 村上 侑(工3)

四月二十日からコートの修理にかかり仕上げは新宿の元氣堂に依頼した。

五月十日(日)晴 コート開きの出席者は大竹、黒田(令嬢同伴)、千代、田中、毎木、小野、今井、小林、柴野、岩野、坂内各O・B十一名と現役が土屋、那須、大橋、新美、野口、細谷、谷、山崎、小松、広瀬、小原の十一名の同数の参加であり、次のゲームが行われた。

- No. 1 千代・小野(6-4) 土屋・那須
- No. 2 田中・毎木(6-4) 土屋・谷
- No. 3 小野・那須(6-3) 小林・今井
- No. 4 大竹・黒田(6-3) 新美・大橋
- No. 5 千代・黒田(6-3) 大竹・大橋
- No. 6 岩野・柴野(2-6) 新美・山崎
- No. 7 大竹(6-2) 6-0 6-1 土屋
千代(6-2) 6-0 6-1 那須
- No. 8 小林・今井(6-1) 細谷・野口
- No. 9 千代・田中(6-1) 小野・岩野

No. 10 黒田・岩野 (7-5) 新美・大橋
 No. 11 小林・今井 (7-5) 2-6 柴野・坂内

六月六日 (土) 曇 対 (於) 上智大

この日は上智大コートが都合で一面しか使えず延期の通知があったらしいが、連絡がつかないまゝ当日になり、先方へ着いてからそれを知り話し合いの結果、「出来るところ迄やりましょう。」ということで一時間四十分を試合開始し、ダブルスのみで終了した。

No. 1 土屋 (3-6) 6-1 6-4 増田
 那須 大西

No. 2 新美 (3-6) 6-2 6-1 竹腰
 小原 渡辺

No. 3 大橋 (2-6) 7-5 6-2 山本
 谷 内山

尚、シングルのオーダーも受けとっており、那須・竹腰・土屋・大西・小原・増田・新美・岡田・谷・山本・大橋・渡辺が対戦する予定であったが時間切れとなり次回に見送られた。この試合に坂内・青木両O・Bと広瀬、山崎、野口、村上の応援があった。

六月十三日 (土) 曇 対青学戦

農大2-7青学

ダブルス 1-2

No. 1 新美・小原 (3-6) 2-6 平野・猿渡

No. 2 大橋・谷 (1-6) 0-6 大角・堀川

No. 3 土屋・山崎 (6-4) 7-5 津谷・堀内

六月十四日 (日)

シングルス 1-5

No. 1 土屋 (□-6) □-6 堀川

No. 2 新美 (6-2) 6-2 津谷

No. 3 小原 (2-6) 0-6 土井

No. 4 大橋 (2-6) 4-6 河崎

No. 5 谷 (3-6) 4-6 小野

No. 6 山崎 (6-3) 11-13 5-7 富田

六月二十一日 (日) 曇後雨 対工大 於東大
 関東学生四部トーナメント二回戦

(一回戦はなし)

農大2-3東工大

ダブルス 1-1

- No. 1 土屋 (3-6) 5-7) 平井満央
那須 一〇
- No. 2 〇新美 (6-3) 6-2) 仲野道雄
小原 藤田 豊
- シングルス 1-2
- No. 2 土屋 (6-4) 4-6 雨天中止) 笠井耕一
- No. 3 〇新美 (6-4) 6-4) 仲野道雄
- 六月二十二日(月) 前日の残ゲーム続行
- No. 1 小原 (1-6) 0-6) 平井満央〇
- No. 2 土屋 (4-6) 笠井耕一〇

以上の結果二回戦で敗退した。東工大①の平井選手は
キャプテンで小柄ながらきれいな、むりのないフォーム
の選手であった。

二十八年十月十一日(日) 対(於) 青学定期戦

農大1-8 青学

- ダブルス 1-2
- No. 1 土屋・那須 (4-6) 3-6) 堀内・土井〇
- No. 2 大橋・谷 (1-6) 2-6) 津谷・橋本〇
- No. 3 〇新美・小原 (8-6) 6-3) 秋庭・斉藤
- シングルス 0-6

- No. 1 土屋 (4-6) 3-6) 堀川〇
- No. 2 新美 (6-3) 3-6) 2-6) 土井〇
- No. 3 那須 (2-6) 2-6) 津谷〇
- No. 4 大橋 (2-6) 0-6) 富田〇
- No. 5 谷 (3-6) 2-6) 秋庭〇
- No. 6 小原 (8-6) 1-6) 1-6) 橋本〇
- 対戦後学院側の招待で青山の盛養軒でミーティングが
催された。

二十八年十月十七日(土) 対東工大 於農大 定期戦

農大8-1 東工大

- ダブルス 2-1
- No. 1 土屋 (4-6) 2-6) 平井満央
那須 笠井耕一〇
- No. 2 〇新美 (6-0) 6-0) 大野 健
小原 細山田 実
- No. 3 〇大橋 (6-0) 6-4) 森 洋一
谷 渋谷 英爾
- シングルス 6-0
- No. 1 〇土屋 (6-4) 6-4) 平井満央
- No. 2 〇新美 (6-3) 6-0) 笠井耕一

No. 3 ○那須 (4 | 6 6 | 1 6 | 0) 大野 健

No. 4 ○小原 (6 | 0 6 | 1 1) 細山田実

No. 5 ○大橋 (6 | 3 6 | 1 1) 河原律朗

No. 6 ○谷 (6 | 1 6 | 0 0) 渋谷英爾

試合終了後、両校チームぶらぶら経堂迄出てみどりやでミーティングを行った。

二十八年十月二十五日(日) 快晴 对上智 於農大

農大 8 | 1 上智大

ダブルス 3 | 0

No. 1 ○新美・小原 (6 | 3 6 | 4 4) 増田・竹越

No. 2 ○那須・阿部 (6 | 4 6 | 4 4) 大西・岡田

No. 3 ○大橋・山崎 (6 | 4 6 | 2 2) 内山・石橋

シングルス 5 | 1

No. 1 那須 (4 | 6 2 | 6 6) 竹越 ○

No. 2 ○新美 (6 | 2 6 | 2 2) 増田

No. 3 ○土屋 (6 | 3 6 | 2 2) 山本

No. 4 ○小原 (6 | 2 6 | 3 3) 岡田

No. 5 ○大橋 (6 | 1 6 | 1 1) 内山

No. 6 ○谷 (6 | 2 6 | 2 2) 石橋

二十八年十一月二十一日 納会の出席者と記録

三浦部長 大竹、千代、原田、黒田、佐藤、小林、青

木、岩野、坂内各 O・B 十名と、現役は土屋、那須、

大橋、新美、細谷、谷、野口、山崎、広瀬、阿部、小

松の十一名計二十一名。

千代・原田 6 | 3 土屋・那須

大竹・黒田 6 | 4 岩野・坂内

原田・小林 6 | 3 新美・阿部

千代・佐藤 6 | 0 広瀬・小松

千代・黒田 6 | 1 大橋・谷

大竹・青木 6 | 0 土屋・那須

大竹・青木 6 | 4 原田・黒田

小林・青木 3 | 6 岩野・坂内

二十九年には新春一月四日から十六日迄高知城麓旅館を宿舎に高知ローンテニスクラブコートで合宿練習を行ない、山崎東先輩が終始指導にあたった。参加者は土屋、那須、大橋、新美、谷、阿部、山崎、広瀬の八名であつ

た。また春の幹部交替は留任が多く次のとおりである。

主将 土屋 秀貢(農4) 主務 村上 侑(工4)

幹事 那須 英(農4) 会計兼副主務 谷 紀信

(緑3) 学連担当 谷 紀信(緑3)

四月二十日には北門脇に部室が与えられ、あちこちに分散保管していた部の財産、用具等を一室に集結することができた。

五月十六日東工大コートに於て対東工大戦が行なわれ五対四で勝っている。

六月十二日(土)から十七日(木)迄学生会館部室を宿舎に農大コートに於て合宿練習を行い、土屋、那須、村上(現雪村)、新美、小原、谷、山崎、阿部、山中、宇都野の計十名参加した。

六月二十日(日)より四部トーナメントが開始された。

二十日 一回戦 対東経大戦 5勝0敗

二十一日二回戦 対医歯大戦 3勝2敗

二十二日三回戦 対静岡大戦 2勝1敗

このあと雨のため中止

二十三日 同 雨天中止

二十四日続三回戦対静岡大戦 1勝1敗

通算 3勝2敗

四回戦対横浜市大戦 3勝2敗

この結果、四部優勝となる。三部との入替戦は雨でのびのびになり乍ら七月二日に青山学院と青学コートで行い、シャットアウトの○勝九敗で昇部を果すことができなかった。

七月二日(土)には部内東西對抗戦を催し、東七対二西で東軍の圧勝に終り夕方から学生会館で盛大な懇親会を行なった。

八月二十日から三十一日迄、会津若松市営コートで付属宿舎を宿舎に合宿練習を行なった。

参加者数等詳細は不明である。

十月三十一日には対東工大戦で九勝〇敗

十一月七日对上智大戦四勝四敗一引分

十一月十一日、十二日第六十四回収穫祭記念クラス対抗テニス大会を実施、十四日の収穫祭にはコート脇のグラウンドに模擬店を出店し、卒業生(二十八卒加藤)が材料、器材の提供をし、部員全員とその友人や家族が売

子となってシルコを一杯三十円、キャラメル二十円、アイス、パン二十円で売り、子供用にテニスのツルボールを二十円で処分して部費の不足補充とした。

たいした利益は上らなかつたが、部員及び学内相互の懇親には大いに役だったものである。

十一月二十三日(火) 勤労感謝の日に対青学戦を行い一勝八敗となった。

十二月五日(日)に納会を北門脇学生会館二号室(和室)で催し、黒田、小野、柴野、岩野、青木、田中の六

O・Bも列席した。

明けて三十年二月二十九日(土)卒業生送別会を経堂の松原屋(そば屋)二階で催し、三浦部長、田中、黒田、加藤の三O・Bを迎えて、土屋、那須、村上、大橋四名を現役残留十一名が送り出した。当時の記録では会費は

二五〇円で記念品代五〇円(シガレット・ケースと色紙を贈呈)であった。

昭和三十年度の役員は次の通り。

主将 新美 節二(化4) 主務 谷 紀信(緑4)
幹事 小原 範男(化4) 会計 村上 英志(緑2)

学連担当 谷 紀信(緑4)

四月一日から十一日迄春季合宿練習を寺院の光照院が宿舎に愛知県半田市宮コートで行ない、新美、谷、野口、細谷、阿部、山崎、小松、宇都野、山中、村上の十名が参加し、O・Bの藤本が三日・四日の二日間指導に当たった。

五月十四日(土)十時から対東工大戦を東工大コートで行った。

農大6―3東工大

ダブルス 1―2

No. 1 新美 (13―11 1―6 7―9) 大野 細萱〇

No. 2 〇阿部・山崎(スコア不明) 杉本・加藤

No. 3 〇村上・小松(スコア不明) 森・山内

シングルス 4―2

No. 1 〇谷 (6―3 6―1) 大野

No. 2 〇山崎 (6―4 6―?) 杉本

No. 3 〇阿部 (6―0 6―2) 森

No. 4 〇宇都野 (6―4 6―0) 山内

No. 5 山中(スコア不明) 細萱〇

№ 6 広瀬 (2-6) 2-6) 加藤○
五月二十一日 (土) 青学コートで対青学戦を行ったが
負けたためか記録がない。

六月六日対横浜市大戦も四対五で敗れている。八月下旬に前年同様、学生会館を宿舎に農大コートで強化合宿を行い、北側のバックネットの全面改修と審判台つくりを部員全員で行った。

十月二十二日から関東学生選手権開始。

十一月四日 (金) から四部トーナメント開始、登録校が多くなり今回の成績により上位四校が四部に残り、他は来春から新設される五部へ移行することになった。

一回戦 対静岡大

二回戦 対明治学院大 この一戦で敗退し翌春から五部となる。

農大 4-5 明治学院大学○

ダブルス 3-6

№ 1 ○谷・村上 (7-5) 6-4) 今村・樋口

№ 2 ○阿部 (2-6) 6-3) 6-2) 清水
大野

№ 3 ○宇都野 (6-4) 4-6) 6-1) 中山
山本

シングルス 1-5

№ 1 谷 (4-6) 6-3) 5-7) 樋口○

№ 2 宇都野 (スコア不明) 清水○

№ 3 村上 (6-4) 4-6) 1-6) 今村○

№ 4 ○山崎 (7-5) 6-8) 6-3) 大野

№ 5 阿部 (3-6) 3-6) 松本○

№ 6 山中 (4-6) 1-6) 中西○

この年の記録で日時・場所が不明であるが対外国語大戦の記録がある。

○農大 6-3 外国語大

ダブルス 1-2

№ 1 山崎・阿部 (4-6) 6-8) 玉貫・並河○

№ 2 新美・谷 (5-7) 3-6) 田中・一柳○

№ 3 ○宇都野 (0-6) 6-2) 6-0) 笠井
進藤

シングルス 5-1

№ 1 ○谷 (4-6) 6-4) 6-3) 笠井

№ 2 ○山中 (6-3) 3-6) 6-2) 浜中

№. 3 ○山崎 (6-4 6-1) 進藤

№. 4 ○新美 (6-3 6-1) 並河

№. 5 阿部 (2-6 4-6) 玉貫 ○

№. 6 ○宇都野 (6-4 1-6 6-2) 田中

尚、この試合のシングルスナンバー5で出場した阿部の対戦相手の玉貫選手は外語大チームの主将であり、他の各試合にも好成績を残していたが、サービスの時のトスがひときわ高く、それからうちおろすフラットサービスの鋭さは定評があり、我がチームにも参考として得るところが多かった。そして人柄も紳士的なおだやかな選手であった。

この時代の世情は不況であり、就職がなかなかかはかしくきまらぬ状態で、四年生になると各大学とも部活動への参加は次第に減少して卒論と就職の対策にとびまわるものが多かったが、農大卒業生も例外ではなく、上級生になるに従ってたち消え的に退部するものが多く、三十一年二月四日に経堂松原屋で催された送別会では卒業生はわずかに新美・谷の二名であった。

高橋 O・B を迎えて現役十一名が参加したが、この年の

卒業記念品は色紙とウイスキーグラスのセットであった。

昭和三十一年度は次の役員に引継がれた。

主将 阿部 幹郎 (化4) 主務 広瀬 清純 (農4)

幹事 山崎 克己 (化4) 会計 広瀬 清純 (農4)

学連担当 広瀬 清純 (農4)

この年から我が部にも女子部員が誕生し、それも五名同時であり特筆すべきことである。佐粧 (現姓中村)、笹岡 (現姓池田)、細田 (現姓森)、佐原、岩崎の五嬢である。

女子部員の入部により男子部員が大喜びかと思つたがお互にそうでもないふりをしていたが、何にしてもキレイになったのは部室である。カーテンがかけられ、靴はならべられ、くさい靴下やタオルが姿を消した。とにかく整頓がゆきとどいたものであった。これには現役よりも卒業生連中が喜びをし、時代の流れを知つた次第である。

六月十日よりの五部トーナメントに於てはくじ運よく一回戦はなく、二回戦が順天堂大学コートで都立大学と

あたり、五戦全勝となった。

出場者はダブルス①阿部・山崎、②山中・村上、シングル①山崎、②宇都野、③阿部であり、何れもポイントをとり全勝したが、翌十一日の三回戦には順天堂大学に〇対五で完封された。

十一月十八日に農大コートで対上智大戦が行なわれたが記録がない。

昭和三十二年度の役員は次のとおりである。

主将 宇都野秀則(化4) 主務 池田 康彦(化4)
幹事 村上 英志(緑4) 会計 山中 誠一(醸4)
学連担当 池田 康彦(化4)

五月十九日及び二十六日の対抗試合の記録は次のようである。

三十二年五月十九日

対工業大学第十一回定期戦

ダブルス

農大1—2工大

№1〇宇都野・赤沢(6—2 6—1) 細菅・山内

№2 山中・村上(3—6 2—6) 笠井・安田〇

№3 佐藤・小野(2—6 1—6) 角田・島田〇

シングルス

農大5—1工大

№1〇赤沢(6—2 6—3) 細菅

№2〇山中(3—6 6—2 6—2) 山内

№3 宇都野(1—6 2—6) 笠井〇

№4〇村上(6—3 6—3) 島田

№5〇水沢(8—6 3—6 6—3) 宮崎

№6〇清藤(6—2 6—3) 山中

三十二年五月二十六日

対学芸大学対抗戦(男子)

ダブルス

農大1—2学芸大

№1 宇都野・赤沢(4—6 2—6) 森・井関〇

№2〇村上・山中(6—3 6—1) 小幡・岸田

№3 佐藤・小野(0—6 0—6) 山田・杉内〇

シングルス

農大6-0学芸大

- No. 1 ○赤沢 (6-1 6-2) 森
 No. 2 ○山中 (6-2 6-3) 井関
 No. 3 ○村上 (10-8 6-1) 杉内
 No. 4 ○清藤 (6-0 6-2) 岸田
 No. 5 ○水沢 (6-1 6-3) 山田
 No. 6 ○佐藤(恭) (6-0 6-1) 小幡

三十二年五月二十六日

对学芸大学对抗戦(女子)

ダブルス

農大1-1学芸大

- No. 1 ○佐粧 (0-6 8-6 7-5) 大山
 能勢
 No. 2 笹岡 (6-3 4-6 3-6) 堀内
 植谷
 シングルス
 農大1-2学芸大
 No. 1 ○佐粧 (6-3 2-6 6-4) 大山
 No. 2 細田 (4-6 0-6) 能勢○

No. 3 笹岡 (1-6 1-6) 大沢○

学芸大は四年生であったが農大チームは全員二年生
 であり貫録まけ

六月八日(土) 对青学戦 記録なし

同十五日(土) 对(於) 成城大戦 九時

同十六日(日) 对明学大於学芸大九時

七月三十一日(水) 六時から農林中央金庫食堂で常盤
 松庭球クラブ総会が開かれ、三浦部長、青木会長、福田、
 黒田、田中、千代、広辺、志津、荒谷、柴野、高橋、加
 藤、木村、大橋、谷、山崎、阿部、佐藤(育)、宇都野
 以上十九名が出席した。

十月十三日(日) には青山学院大学との定期戦を行な
 ったが○対九で完敗した。

三十三年三月十四日(金) 常磐松庭球クラブ総会を農
 林中央金庫食堂で開き、金木部長をはじめ黒田、千代、
 佐藤(忍)、木村、高橋、本田、大橋、谷、阿部、山中、
 清藤、佐藤の十三名が出席した。

尚、この年の部の卒業生十名のうちの半分五名が女子
 第一期生である。

昭和三十三年度の役員は次のとおり。

主将 水沢 辰夫(農4) 主務 鈴木 雅雄(工4)
 幹事 清藤 盛正(化4) 会計 佐藤 育弘(化4)
 学連担当 佐藤 育弘(化4)

このメンバーによる春の合宿を四月二日から静岡市長谷通の長谷旅館を宿舎にして行った。

コート開きは五月二十五日(日)に南西の強い風が吹きつけるなかで行なわれたが快晴であり、卒業生は青木会長、黒田、荒谷、福井、岩野、青木、高橋、谷、阿部、山崎と、笹岡、佐粧の二女性が初参加し計十二名であった。

十一月二十三日(日)対横浜市大戦は成績芳ばしくなく一勝八敗となっている。

十二月十四日に納会を行い、青木会長、山崎(東)、黒田、千代、岩野、井上、野口、谷、阿部、笹岡、佐粧、細田、赤沢の各卒業生が参加した。

昭和三十四年度の役員は次のとおりである。

主将 吉田 隆生(化4) 主務 岩崎 一敬(造4)
 幹事 岩崎 一敬(造4) 会計 水谷 澄(化4)

学連担当 吉田 隆生(化4)

この年の記録は大変乏しく、判っているもののみを列挙することとする。

五月二十日から世田谷六大学対抗戦が開始された。

同じ日に卒業生の会である常磐松庭球クラブの総会が夕方五時半から銀座二丁目プレイガイド地下の喫茶店イナナキで催された。

昭和三十五年度の役員は次のとおりである。

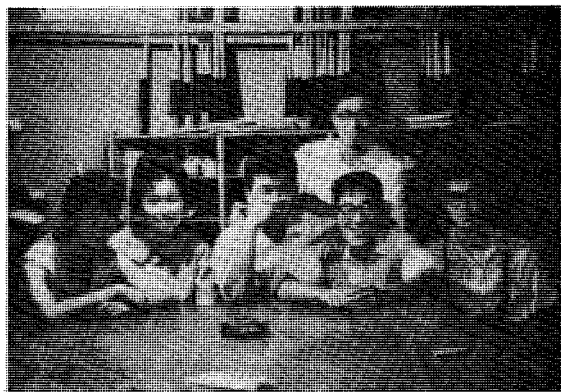
主将 長瀬 和夫(化4) 副将 大國 隆昭(農4)
 主務 大國 隆昭(農4) 副務 佐藤 裕亮(化3)
 幹事 佐藤 裕亮(化3) 会計 佐藤 裕亮(化3)
 会計補 なし

この年も記録が非常に乏しい。

五月十五日にコート開きを、八月二十八日から九月四日迄農大での強化練習を、十月十六日に対O・B戦、二十二日に対(於)農工大戦、二十九日に対(於)東工大戦を行い、十二月十一日(日)納会を行なった。

昭和三十五年道の途中で役員は次のように交代した。

主将 佐藤 裕亮(化3) 副将 荒井 良司(農3)



部室のスナップ
(昭35.6)

主務 大坪 香樹(経3) 副務 最上 純一(経3)
 幹事 伊藤 久能(化3) 会計 佐藤 裕亮(化3)
 会計補 猪狩 満夫(工2)
 昭和三十六年、コートサイドのフェンス(四〇間)を
 先輩諸氏の寄付により新設した。

春合宿は静岡市の浅間神社近くの「八百源旅館」に宿泊し、コートは市立高等学校を拝借して行ない、来るべきリーグ戦にそなえた。

関東学生連盟の加盟校は一部から五部まで各四校で、その他の加盟校が六部に下部校として組み分けられ、わが部は六部の一校として名を連ねていた。そして、この関東大学庭球リーグの成績がその部、その学校を評価する基準であった。

第六部はトーナメント方式で行われ、第一戦は、静岡大学を農大コートに迎えて対戦し、六対三で勝ち二回戦に進んだが武蔵工業大学に敗れてしまった。

コート開きは、四、五人の先輩が参加されて行われ、又、新入生歓迎会も旧学生会館でお菓子をつまみ乍らのさ々やかなもので、現在のものとは大ちがいである。

庭球部日誌をつけ、部室そうじの当番を決めて、毎日のように部会を行ない、それまで自由だった服装も上下黒の学生服着用としたのもこの頃の事である。

それまで部の再建につくした佐藤裕亮主将ほか幹部に代って新しく長谷、呉本、猪狩、河内(故人)、隈の五

人が部の指揮をとる事になった。

新メンバーになってから東海大学や遠征して来た大阪経済大学と対抗戦を行ない、いずれも勝って幸先よいスタートをした。そしてこの頃は団体生活という事を打ち出し組織づくりに力を入れた時代であった。

夏合宿は仙台市榴ヶ岡の梅原先輩の経営する「梅林旅館」に宿泊し、コートは宮城野県宮と青葉山の麓にある市営コートで行われた。夏休みの長いブランクのあといきなり合宿に入って、初日は柔軟体操だけみっちりしたため翌日は歩くのにも不自由をし、仙石線から乗り換えて青葉山コートへ行く途中の仙台駅の階段を集団で這って昇り降りした。

秋のシーズンは青山学院大学、東京工業大学との定期戦のほか新たに東京農工大学とも定期戦として行なった。青山学院には全く歯が立たず、東京工大には四対五で惜敗したが農工大には八対一で快勝した。理工系大学リーグ戦は一勝一敗になり決勝リーグ進出はならなかった。

部内対抗戦を行ない、日吉・池田組が優勝した。十二

月三日、納会を行なったあと、十日から一年生の強化練習をし、当番制でコート管理をしてひと冬を過した。

三十七年は元旦のコート整備から始まった。現在のように冬の霜柱の凍上防止として塩化カルシウムを撒布するのではなく、米俵を一枚のコモにし、それを二十枚位継ぎ一本の帯状にし、それを夜は敷き日中は巻いてローラーをかけた。

四月一日から農大コートで強化練習を、又春合宿を静岡市駿府公園コートで八百源を宿舎に行なった。

五月二十二日、青山学院との定期戦で零敗したがその後の話し合いで、清水、宮城、河端、本多の四名を合同練習に派遣した。

関東大学庭球リーグ第六部はトーナメント方式で行なわれ、第一戦で日本医科大学に大敗してしまった。この試合で相手チームは定刻ぎりぎりまで選手が集まらずあわや不戦勝になりそうだった。このほかに対抗戦をしたが戦績はあまりふるわなかった。

尚この一年間の主な試合のスコアは次の通り。

三十六年十月八日

対東京工業大学定期戦（五部校）於工大コート

ダブルス

農大2-1工大

No. 1 ○長谷 河内 (6-4 3-6 7-5) 黒津 吉村

No. 2 ○呉本 日吉 (6-2 4-6 7-5) 鈴木 門倉

No. 3 田代・清水 (4-6 3-6) 矢敷・入沢 ○

シングルス

農大2-4工大

No. 1 長谷 (2-6 8-10) 森 ○

No. 2 ○日吉 (6-4 0-6 7-5) 佐伯

No. 3 田代 (1-6 2-6) 入沢 ○

No. 4 河内 (4-6 6-3 4-6) 白石 ○

No. 5 清水 (3-6 2-6) 鈴木 ○

No. 6 ○呉本 (8-6 6-4) 直井

エキジビションマッチ

○莊野・菊地 10-8 高橋・高橋

鈴木・志茂坂 0-6 寺尾・室坂 ○

限 1-6 牧野 ○

○永井 6-1 川田

宇野 2-6 千葉 ○

三十六年十一月三日

関東理工系大学リーグ戦（Cブロック）

対早稲田大学（Cブロック二位決定戦）於農大コート

ダブルス

農大2-1早大

No. 1 田代 清水 (2-6 6-3 1-6) 鈴木 浅井 ○

No. 2 ○長谷・河内 (9-7 6-2) 栗林・渡辺

No. 3 ○日吉・呉本 (6-2 6-1) 福田・湯沢

シングルス

農大5-1早大

No. 1 田代 (4-6 1-6) 鈴木 ○

No. 2 ○玉川 (6-4 6-1) 栗林

No. 3 ○河内 (6-1 6-4) 浅井

- No. 4 ○日吉 (6-1 6-1) 渡辺
- No. 5 ○永井 (6-0 6-0) 野際
- No. 6 ○呉本 (6-2 4-6 6-2) 湯沢

三十六年十一月十二日

対青山学院大学定期戦(三部校) 於農大コート

ダブルス

農大0-3青学大

- No. 1 長谷・河内 (1-6 2-6) 池田・海野○
 - No. 2 日吉 (3-6 6-2 0-6) 西松○
服部○
 - No. 3 呉本・荘野 (0-6 4-6) 則竹・大石○
- シングルス

農大0-6青学大

- No. 1 長谷 (0-6 1-6) 池田○
- No. 2 日吉 (2-6 0-6) 和知○
- No. 3 玉川 (4-6 0-6) 高橋○
- No. 4 河内 (1-6 4-6) 海野○
- No. 5 宮城 (2-6 3-6) 勢濃○

- No. 6 呉本 (5-7 3-6) 堀○
- エキジビションマッチ(2セットマッチ)

清水 6-4 2-6 若林

長谷川 2-6 2-6 大塚

三十七年五月二十二日

対青山学院大学定期戦

ダブルス

農大0-3青学大

- No. 1 清水・永井 (0-6 2-6) 則竹・大石○
 - No. 2 呉本 (4-6 6-2 6-8) 下地○
菅原○
 - No. 3 隈・田代 (0-6 3-6) 勝又・笠倉○
- シングルス

農大0-6青学大

- No. 1 河内 (4-6 2-6) 則竹○
- No. 2 呉本 (2-6 1-6) 大石○
- No. 3 永井 (4-6 9-11) 深見○
- No. 4 菊地 (2-6 0-6) 水野○

No. 5 宮城 (2-6) 堀○
No. 6 清水 (2-6) 5-7) 菅原○

三十七年六月二日

対日本医科大学六部トーナメント

ダブルス

農大0-3日本医大

No. 1 隈・田代 (2-6) 1-6) 橋本・島田○
No. 2 呉本・河内 (3-6) 1-6) 山之内・畑○
No. 3 清水・永井 (2-6) 1-6) 青木・阿久津○

シングルス

農大1-5日本医大

No. 1 田代 (0-6) 0-6) 橋本○
No. 2 永井 (6-1) 6-3) 島田
No. 3 河内 (9-7) 2-6) 2-6) 山之内○
No. 4 呉本 (3-6) 3-6) 畑○
No. 5 清水 (7-9) 1-6) 青木○
No. 6 宮城 (2-6) 4-6) 阿久津○

昭和三十七年の幹部は次の通り

部長 金木 良三 主将 宮城 忠 (工3) 副将
兼グラウンドマネージャー 清水 淳平 (造3) マネ
ージャー 菊地 実 (経3) サブマネージャー 河
端 謙治 (畜2) 幹事兼会計補佐 田代 勉 (造3)
会計 宇野 晃 (造2)

夏合宿は昨年と同じく仙台で行なったが昨年の経験を生かし、農大コートで八日間の強化練習をした。出発の時、上野駅で「青山ほとり」を踊ったら周囲の人達が珍らしそうに集まり汽車の中の乗客までが驚いて降りて来た。

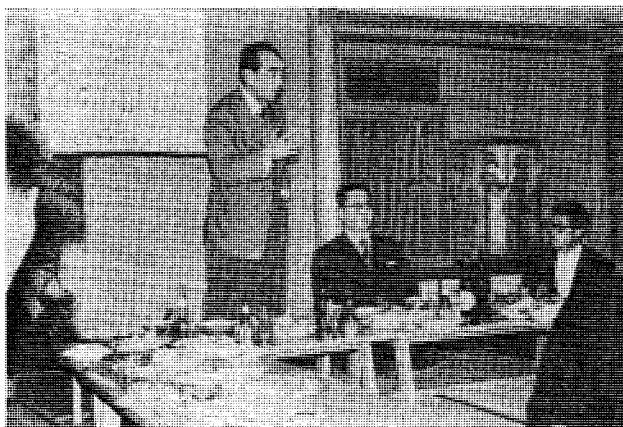
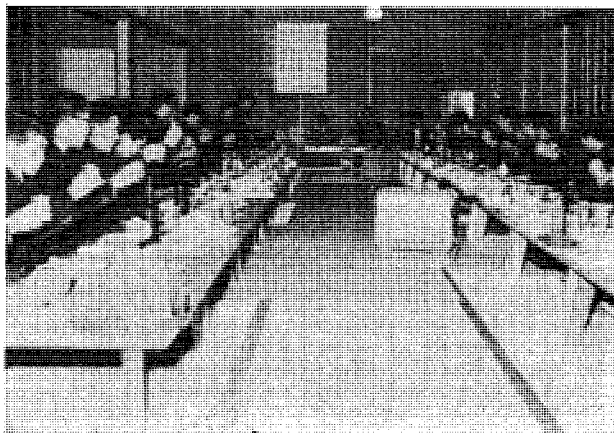
ある程度、身体をならして行だったので昨年のような事はなかった。女子は合宿に参加せず農大コートで練習を続けた。

秋のシーズンは東京工大との定期戦が始まったが○対九で惨敗したが長く続いたこの定期戦もこの年限りとなった。

この秋は七試合をしたが三勝四敗の成績で理工系リーグ戦で二敗したのは残念である。

三十八年一月、新年の練習を開始した。卒業生送別会

(渋谷松木屋)
卒業生送別会 (昭36.2)



を下北沢駅前の「小清水」で行なった。
春合宿を農大コートで行ない、更にレギュラー合宿をしてリーグ戦に臨んだ。

関東大学庭球リーグ第六部は四ブロックに分けての予選リーグが行われ、東京商船大学に八対一、東海大学に七対二、千葉大学に五対四、茨城大学に九対〇で勝ったが横浜国立大学に二対七で敗れ、決勝リーグへの進出はならなかった。

五月十九日、恒例の青山学院との定期戦を行なったが三対六で善戦したが敗れた。この外の試合はすべて勝ち春のシーズンにおける成績は七勝二敗と好調で次の幹部に交代した。

尚、この一年の主な試合のスコアは次の通り

三十七年十月十八日

対理科大学対抗戦

ダブルス

農大2—1理科大

No. 1 〇宮城 (7—5) 2—6 6—3
田代 (落合 松本)

No. 2 〇清水・河端 (6—1) 6—1 土井・平井
No. 3 菊地・佐藤 (1—6) 4—6 中野・幡野〇

シングルス

農大4—2理科大

No. 1 〇清水 (6—4) 3—6 5—7 木村

No. 2 〇宮城 (6—0) 7—5 落合

No. 3 〇田代 (3—6) 6—3 6—3 土井

No. 4 佐藤 (1—6) 2—6 中野〇

No. 5 〇菊地 (10—8) 6—3 大隅

No. 6 宇野 (0—6) 2—6 幡野〇

三十七年十一月十日

関東理工系大学リーグ戦

対早稲田大学工学部

ダブルス

農大1—2早大

No. 1 菊地・佐藤 (2—6) 6—8 鈴木・渡辺〇

No. 2 宮城・田代 (4—6) 2—6 栗林・水垣

No. 3 〇清水・河端 (8—6) 6—3 池田・大津

シングルス

農大2—4早大

- No. 1 田代 (4—6) 2—6) 鈴木○
- No. 2 清水 (3—6) 5—7) 栗林○
- No. 3 ○佐藤 (6—2) 10—8) 水垣
- No. 4 ○宮城 (6—3) 6—4) 池田
- No. 5 菊地 (3—6) 0—6) 渡辺○
- No. 6 河端 (2—6) 5—7) 大津○

三十七年十一月二十四日

対農工大学定期戦

ダブルス

農大2—1農工大

- No. 1 ○清水 (3—6) 6—3) 6—4) 西本
永井
 - No. 2 佐藤・菊地 (3—6) 2—6) 佐田・中森○
 - No. 3 ○宮城・田代 (6—2) 6—1) 依光・岩倉
- シングルス
- 農大4—1農工大

No. 1 宮城 (3—6) 5—5) 日没中止) 西本

No. 2 ○清水 (6—2) 6—2) 佐田

No. 3 永井 (6—1) 7—9) 4—6) 依光○

No. 4 ○田代 (8—10) 6—1) 8—6) 岩倉

No. 5 ○佐藤 (6—4) 6—2) 中村

No. 6 ○井上 (8—6) 1—6) 6—4) 中森

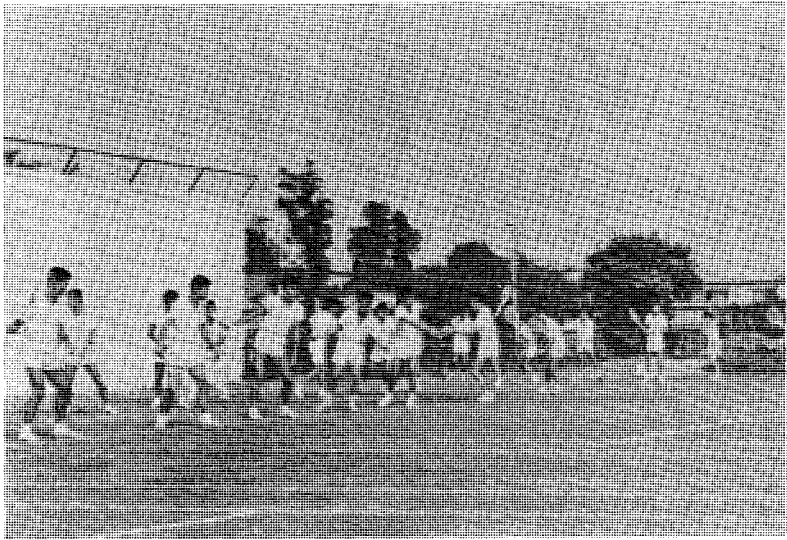
三十八年五月十九日

対青山学院大学定期戦

ダブルス

農大0—3青学大

- No. 1 宮城・本多 (2—6) 3—6) 大石・則竹○
 - No. 2 清水・永井 (0—6) 2—6) 和地・勝又○
 - No. 3 井上・川崎 (3—6) 1—6) 水野・笠倉○
- シングルス
- 農大3—3青学大
- No. 1 宮城 (1—6) 1—6) 堀○
 - No. 2 永井 (7—9) 0—6) 奥田○
 - No. 3 ○清水 (9—7) 6—4) 小西



新しく出来た練習板を前にしての練習風景 (昭38.11)

No. 4 本多 (7-9 2-6) 三谷〇

No. 5 〇川崎 (7-5 6-0) 朝河

No. 6 〇井上 (12-10 6-4) 海野

三十八年度の幹部は、部員全員の無記名投票による選挙で次のように決定した。

主将 河端謙治 (畜3) 主務 宇野 晃 (造3) 幹

事 本多信男 (経3) 会計 柴崎哲男 (農3) 理工

系連盟委員長 宇野 晃

この年は理工系大学院球連盟の主催校に当たっていたため、先ず個人戦を開催した。参加者を組み分け、ドローを作成、後援の報知新聞社と交渉し賞品をもらったり、記事を報告したりで小さい大会でも結構忙しい思いをした。

この大会では東工大が単・複とも優勝し川崎がベスト8に残った。

夏季合宿は志賀高原丸池で行ない秋のシーズンに挑んだが五敗と振わなかった。

四年生対現役の試合は七対二で現役が勝ち、女子リーグ戦は菊地原 (栄1) が優勝した。

十一月二十四日、納会が行われ、十五名の先輩諸氏が出席され盛会であった。

三十九年一月、送別会を挙行し好成績を残した卒業生を社会へ送り出した。

試験後、学連主催の下部校練習会があり、石川、川崎が朝日生命久我山コートへ行つた。三月十日から農大コートで強化練習および合宿を行ないリーグ戦に備えた。

リーグ戦に先立ち、主将、主務会議で七部を新設し現在の六部二十九校のうちベスト4が六部にとどまりその他は七部となる事が決つた。

四月一日から六部の予選リーグが始まつた。第一戦は強敵東京外語大と対戦し○対九で敗れ、そのあと二連敗したあと四連勝したが結局、来年は七部に移行する事になった。この年、外語大は六部で優勝し入替戦にも勝つて五部に昇格した。

春のシーズンは全く不調のまま次期幹部に引継ぐ事になるが、このあと、活躍の著しい、いわゆる「躍進時代」を迎える訳である。

第二次世界大戦でそれまで隆盛期にあつたわが庭球部

も戦争が激化すると共に解散に至り、終戦の混乱時代の日本国民全てが不自由をしていた頃に伝統ある農大庭球部の灯を復活させた杉山一雄、泉昌一両氏をはじめとする諸先輩に「農大魂」を見るような気がする。

戦後の二十年間には、いくつかの波があつたようだが躍進時代の基礎をつくり、種まきの役割を果たした佐藤裕亮（三十七年卒）の功績は大きいものがある。

尚、この一年の主な試合のスコアは次の通り

三十八年六月二十三日

対農工大学定期戦 於農工大コート

ダブルス

農大3—0農工大

No.1 ○柴崎・本多 (6—2 6—1) 西本・中村

No.2 ○河端・銀山 (6—3 6—4) 佐田・内海

No.3 ○川崎 (5—7 6—1 7—5) 依光
井上 (5—7 6—1 7—5) 岩倉

シングルス

農大3-3農工大

- No. 1 柴崎 (3-6) 0-6 西本○
 - No. 2 本多 (9-7) 6-3 依光
 - No. 3 川崎 (7-5) 6-1 岩倉
 - No. 4 井上 (6-4) 6-1 佐田
 - No. 5 銀山 (6-4) 1-6 1-6 内海○
 - No. 6 石川 (4-6) 3-6 萩原○
- エキジビションマツチ
- 大矢・古市 4-6 吉田・原○
 - 梅津 3-6 石井○
 - 今 3-6 新居○
 - 吉田

三十八年十一月八日関東理工系リーグ戦

対防衛大学 於農大コート

ダブルス

- 農大1-2防衛大
- No. 1 井上 (6-0) 4-6 3-6 黒田○
- 川崎 (6-0) 4-6 3-6 宇田○

No. 2 本多・石川 (10-8) 6-4 笠井・熊手

- No. 3 河端 (3-6) 6-8 加賀田○
- 外山 (3-6) 6-8 和久田○

シングルス

農大4-2防衛大

- No. 1 本多 (6-3) 2-6 6-3 加賀田
- No. 2 川崎 (6-1) 6-3 熊手
- No. 3 石川 (5-7) 0-6 黒柳○
- No. 4 外山 (7-9) 7-5 3-6 笠井
- No. 5 井上 (1-6) 11-9 7-5 和久田
- No. 6 今 (2-6) 1-6 木原○

三十九年□月□日

関東大学庭球リーグ戦第六部第五週

対埼玉大学

ダブルス

農大3-0埼玉大

- No. 1 川崎・井上 (6-1) 6-0 篠原・高橋
- No. 2 本多 (6-2) 5-7 6-1 伊藤
- 石川 (6-2) 5-7 6-1 中島

No. 3 ○大矢・今 (6—1 6—2) 奥山・中川

シングルス

農大 4—2 埼玉大

No. 1 ○川崎 (6—1 6—2) 篠原

No. 2 ○本多 (6—4 4—6 8—6) 伊藤

No. 3 ○井上 (10—8 6—2) 中島

No. 4 ○石川 (8—6 6—1) 高橋

No. 5 今 (2—6 6—1 5—7) 増田○

No. 6 古市 (0—6 0—6) 小川○